正しい行いよりも正しい存在
ジェミー・リリー
テキスト:
エペソ人への手紙 5:21-6:9 口語訳

論文: 聖書は、イエスの信者として私たちが正しい行いではなく正しい存在に召されていることを教えてくれます。

「おはようございます」の挨拶と紹介

今週はエペソ人への手紙に戻ります！
参考までに:
エペソ人への手紙は書簡、つまり手紙を意味します。この場合、パウロがエファシの教会に宛てた手紙ですが、ユダヤ人と異邦人、夫と妻、親と子、主人と召使など、全世界に向けた手紙としても書かれています。パウロの時代における神の心と意志であり、現代においてもインスピレーションの声であり続けています。この手紙は普遍的な魅力と応用力があり、何世代にもわたって受け継がれてきた真理を含み、あらゆる文化の人々の心に響き続けていると言えます。

これは、私たちが教会としてどのように生き、教会であるのかという問いに対する答えです。この問いは、2024年の今日、直接の聴衆とは大きく異なる世界で、宗教というレンズを通して答えられました。この違いにより、私たちは構造に安心感を見出すようになったと思います。なぜなら、周囲で物事が混乱したり混乱したりすると、私たちは拠り所を探すからです。

このため、私たちは信仰を、行動を導く一連の「すべきこと、すべきでないこと」の集まりとして捉えることが多いと思います。しかし今日、私はその見方に異議を唱え、天国、神の家族、そして教会の一員であることは、正しい行いではなく、正しい在り方であるということを示唆したいと思います。そして、それは私たちの形成から始まります。

この正しい存在というテーマは、このシリーズ全体と、そこに散りばめられた単発の話題を通して、皆さんが気づいていることだと思います。私たちは、天国がどのようなものか、そして私たちがそこに向かってどのように向かっているかについて話しました。私たちは、神の家族における個人としての参加と、コミュニティにおける私たちの責任について話しました。そして、聖霊だけが私たちの中で行える変革の働きについて話しました。

最近、主は私自身の人生における正しい行いと正しい在り方の違いについて私に語っておられます。ですから、私たちが会話をしたり、牧師の会合を持ったりしたことがあるなら、おそらく私がこのことを話しているのを聞いたことがあるでしょう。

私が言いたいのは、時々、個々の時期であれ、時代や世紀全体であれ、教会として、そして個人として、私たちは頭で信仰を実践してしまうということです。私たちは自分の考えや戦略に頼り、注ぎ出そうとしますが、私たちが引き出しているのは、回転する歯車でいっぱいの心だけです。私たちの脳は物事を理解しようと働きますが、そこに真の信仰が宿るわけではありません。
今日はエペソ人への手紙 5:21-6:9 を見ていきます。私たちの多くは、この聖句がクリスチャンの家庭への指示であることを知っているでしょう。これは表面的な意味合いで捉えると、頭が痛くな

る聖句です。正しいことを知り、それを実行することについて書かれています。しかし、いくつかの質問をして少し掘り下げていくと、キリストにおける私たちのアイデンティティについてのより深い真実も明らかになります。

“キリストに対する恐れの心をもって、互いに仕え合うべきである。妻たる者よ。主に仕えるように自分の夫に仕えなさい。キリストが教会のかしらであって、自らは、からだなる教会の救主であられるように、夫は妻のかしらである。そして教会がキリストに仕えるように、妻もすべてのことにおいて、夫に仕えるべきである。夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように、妻を愛しなさい。キリストがそうなさったのは、水で洗うことにより、言葉によって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである。それと同じく、夫も自分の妻を、自分のからだのように愛さねばならない。自分の妻を愛する者は、自分自身を愛するのである。自分自身を憎んだ者は、いまだかつて、ひとりもいない。かえって、キリストが教会になさったようにして、おのれを育て養うのが常である。わたしたちは、キリストのからだの肢体なのである。「それゆえに、人は父母を離れてその妻と結ばれ、ふたりの者は一体となるべきである」。この奥義は大きい。それは、キリストと教会とをさしている。いずれにしても、あなたがたは、それぞれ、自分の妻を自分自身のように愛しなさい。妻もまた夫を敬いなさい。”

エペソ人への手紙 **5:21-33** 口語訳

“あなたがたは、だれにも不誠実な言葉でだまされてはいけない。これらのことから、神の怒りは不従順の子らに下るのである。だから、彼らの仲間になってはいけない。あなたがたは、以前はやみであったが、今は主にあって光となっている。光の子らしく歩きなさい—— 光はあらゆる善意と正義と真実との実を結ばせるものである——”

エペソ人への手紙 **5:6-9** 口語訳

文脈を理解する

この文章の文脈を理解することは重要であり、額面通りに受け取ると大きな損失を被ることになります。それを分析してみましょう:

** 事柄 1:** パウロが与えた指示は、当時の文化に特有のものでしたが、多くの議論を巻き起こし、歴史を通じてひどく誤用されてきました。私たちはこれらのテキストを厳格な規則としてではなく、より深い精神的な真実の反映として捉えなければなりません。そうしないと、抑圧や虐待などの王国に反する価値観を永続させてしまうことになります。

その2:この一節は、すべての人に宛てた手紙であるエペソ人への手紙の中にあることはご存じのとおりです。この一節は、夫と妻、親と子、主人と召使といった特定の家庭内の役割を担うクリスチャンに指針を与えていますが、イエスに従うすべての人がこれらのカテゴリーに当てはまるわけではありません。この一節は、一見してわかることを超えた、より深い真実を発見するよう私たちを誘います。

今日は、これらの節についての私の解釈を皆さんにお伝えしたいと思います。皆さんも、聖書と難解な節を読み、格闘する私の活動に参加していただきたいと思います。皆さんは私に同意する必要はありません。これは、私が聖書から学び、得たものにすぎません。

In the Husbands and Wives section we have the words *submit” and *head* which have been the source of the most debate.

ギリシャ語の「従う」という言葉は、*ヒュポタセス* という語に由来しており、文脈によって意味が異なります。軍事的な意味では、リーダーの指導の下で部隊を編成することを意味します。戦争以外では、協力、責任、服従の自発的な姿勢を意味します。聖書は、妻が夫より劣るのではなく、協力的な助け手となるよう求めています。夫は、キリストが教会に示したのと同じ無私の犠牲的な愛で妻を愛するよう求められています (25 節より)。

「頭」という言葉は*kephalē*で、「生命の源」と訳すことができます。私たちはしばしば「頭」を「権威」と解釈します。しかし、服従という言葉の文脈と合わせて、私が見ているのは相互依存関係、つまり愛を通して犠牲、責任、そして命を交換することです。

次のセクション (エペソ 6:1-4) では、十戒の 1 つに基づいて、子供たちに親に従うように教えています。父親は、子供たちを怒らせないように、神の戒めと教えに従って育てるようにと教えられています。これを読んだとき、私は「この原則が父親に限るはずがない」と思いました。まず、母親は除外されています。母親、叔父、叔母が「聖書には私の名前が具体的に書かれていないので、私には当てはまりません」と言ったらどうでしょうか。それはばかげています。聖書が具体的なことを示している場合、それは誰かを排除することではなく、行動のモデルを提供することです。
ここで私が見ているのは、次世代を育てる責任がある人々への指示です。教え、導く責任があるなら、それを実行するために健全な状態にいる責任があります。誰かを怒らせることは反応であり、形成からの反応ではありません。
5-9節では、パウロは主人と奴隷に語りかけ、イエスがすべての人々の王であることを知って、主人が彼らを公平に扱うよう促しています。イエスは特定の人を好む王ではありません。これは、神の目にはすべての人が平等であるということを教えています。

少し間を置きます。これは多くの情報であり、おそらく皆さんがこれまで聞いたことのない視点だったと思います。不快な部分もあるかもしれませんが、これは私たちが自分の信念や価値観を吟味する機会を与えてくれると思います。耳を傾ければ、聖霊からの招待があるかもしれません。
あなたにとって共鳴するものは何ですか？ 何があなたを苛立たせていますか？ どんな疑問がありますか？ これから何が起こりますか？

精神に生きる: 継続的な変革への呼びかけ

この家庭の指示はコロサイ書にも記載されています。コロサイ書 3:18-4:1。コロサイ書の方が少し短いなど、この 2 つには若干の違いがありますが、共通点としては文脈が少し異なるという点もあります。

家庭の指示の直前に、パウロは聖霊についての指示を与えています。彼は聖霊に満たされることについて語っていますが、それは一度きりの出来事ではなく、継続的なプロセスです。もしあなたが神から遠く離れていると感じたり、すべての「正しい」ことをしているにもかかわらず、信仰に何かが欠けていると感じたりしているなら、今日、聖霊に満たされるようにというあなたの招待は、おそらくあなたにとって良いものでしょう。
聖霊に満たされることと悔い改めは一度きりの出来事であると考えることで、私たちはしばしば、クリスチャン生活の充実を損ねているのではないかと心配しています。キリストにおける私たちの生

活は、イエスの足元に絶えず立ち戻ることであり、イエスが私たちのために設計した体に絶えず立ち戻ることです。パウロはこれに触れています。信者は、期待されている最低限のことで単に「なんとかやっていける」べきではありません。キリストにおける私たちの生活は、宗教的義務のリストをチェックするだけでなく、継続的で深まる関係なのです。

聖霊が私たちの頑固さに命を与えてくれるという思い起こさせ、励ましを与えても、このような箇所に戻って落胆してしまうことはよくあります。

難しい文章への挑戦

これは難しい聖句です。難しい聖句の難しさは、それが私たちに鏡を見せることです。私たちが傷ついた場所や、どのように傷を永続させているかを明らかにしたり、思い出させたりします。先週、私たちは洗礼式を行いました。その前に私は人々に「洗礼の水に入ると、世界の破壊の重さがわかります。あなたが傷つけるようなことをしたか、他の人があなたを傷つけたかのどちらかで、あなたは壊れた世界の重荷の下で生きてきたのです」と話しました。
あなたも同じだと思います。あなたは今日、傷を負ってここに座っています。私もそうなので、そのことはよくわかります。その水域に足を踏み入れるということは、世界の死に反対する立場を取ることです。鏡を掲げて、自分の人生を見つめ、おそらく自分の傷を認識することです。そして、もうそれらのものに囚われないと言います。その代わりに、傷を悔い改め、変容し、形作られた人生へと歩み出します。

パウロの教えの本質は、キリストの変容をもたらす愛を生きることです。福音はすべての人にとって良い知らせです。それは、失われた状態から見いだされる状態へ、死んでいる状態から生きている状態へと変容できるという良い知らせです。

これがイエスが私たち全員に望んでいることです。

神の家族における正しい存在。

あなたはこう思うかもしれません。「この聖句は人間関係について語っているのであって、個人の形成について語っているのではないから、話がそれている」と。そして、それはほぼ正しいでしょう。人間関係の健全性と長続き性は、イエスと過ごす時間を通して起こる個人の形成から生まれます。パウロの教えは、古代の家庭内の力関係を超えて、相互の尊敬、親切、愛の重要性を強調しています。私たちの人間関係は、キリストのような態度で特徴づけられるべきであり、各人が神の目を通して相手を見るべきです。ここで「正しい存在」という概念が関係してきます。神の家族の一員であるということは、私たちの行動がキリストにおける私たちのアイデンティティから自然に生じるべきであることを意味します。私たちは単に規則に従うよう求められているのではなく、私たちの壊れた状態でイエスと共に座り、その時だけでなく今生きている神の霊が私たちの人生の奥深くに入り込み、神だけができることで私たちを変えることができるように求められているのです。

これが真の正しい行いです。神の前に立つことです。

そこから正しい存在が生まれます。

「正しい存在」とはどのようなものでしょうか？

夫と妻の教えを通して、キリストを敬い、他の人々の中に命を見出すことで、お互いに従うことが正しいことだと分かります。

子どもと親の教えは、遺産の王国の価値について私たちにヒントを与えてくれます。あなたが今いる場所にどうやってたどり着いたか、そしてあなたが何を残すかが重要です。私たちには子どもたちの世話をする責任があります。もちろん、実際の子どもたちだけでなく、信仰に新しく入った子どもたちの世話もです。これは私たち自身の癒しのほとばしりから来なければなりません。

奴隷と主人の教えから、私たちは神の約束を思い出します。神の恵みは、誰に対しても偏りがありません。あなたの地位は神にとって重要ではありません。あなたが何をもたらすことができるかは、神にとって重要ではありません。神はただあなたを、ありのままのあなたを、すべて望んでいるのです。

整体拝領
祝祷
家庭であれ教会であれ、神の家族であることの意味を振り返るとき、こうした関係の健全性と幸福は、規則を厳格に守ることではなく、相互の服従、愛、そして聖霊の継続的な充足にかかっていることを思い出しましょう。
私たちがイエス様の御前に入り、聖霊に満たされ、お互いに健全な関係を築く人々となりますように。